

# 若者正社員化・学童利用料 軽減の拡充を予算化



## 2月県議会開会

県議会2月定例会は、2月20日開会で3月17日までの会期で開かれます。15日には議会に対し2017年度の予算内示が行われました。

一般会計総額は16年度当初比で1.7%減の6132億4万2005円となりました。吉村美栄子知事は、若者の雇用や中小企業の稼ぐ力の充実強化などを重視したとしています。

主な事業として  
非正規雇用労働者の正社員化、所得向上を総合的に支援(2億2800万円)  
小規模事業者向け新メニュー創設などを含めた「中小企業スーパードクターサポート補助金創設」による中小企業支援(6億8700万円)

多子世帯、低所得世帯に対する放課後児童クラブの利用料軽減(7100万円)  
ひとり親家庭の移住支援、資格取得応援プロジェクトなどの充実(5800万円)  
がん総合相談支援センターの創設など「がん対策県民運動」の展開(2400万円)

山形大学重粒子線がん治療装置の整備に対する支援(3億円)

生産農業所得1.3倍に向けたスーパートップランナーなどの育成など(1億2000万円)、園芸大園やまがたの実現に向けた大規模園芸団地化の推進(2億5500万円)

木質バイオマス等の熱利用設備導入への支援など(3100万円)  
多発する集中豪雨に備えた河川の流下能力の計画的な向上(2億6200万円)

奥羽・羽越新幹線の整備実現に向けた取組の推進(3200万円)などが盛り込まれています。

若者の雇用や放課後児童クラブの支援拡充などは、日本共産党県議団が吉村知事に予算要望、提案していた項目であり、それが反映されたものと考えています。また、検討すべき課題や議論すべき項目もあり、議案調査や検討を踏まえ、委員会審議に臨んでいきます。他に、副知事選任に関する人事案件や機構改革として「観光スポーツ部」の新設、議員提案による「手話言語条例」なども審議される予定です。



2017年2月26日  
-27号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子  
<連絡先>  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241(受付)  
自宅：山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

2月定例会を前に閉会  
中審査が行われました

## 事業継続支援拡充

2月2日の商工労働観光常任委員会では、中小企業の事業継続について取り上げ、県の事業引き継ぎ支援センターの相談実績や今後の取り組みについて質問しました。渡辺将和中小企業振興課長は、「センターが設置されて2015年度は10か月で144件だったが、今年度は412月で173件の相談を受けて付けていて、昨年度を上回っている。事業承継は、時間がかかるが、相談を受けて3件が実現に至っている。」「国の予算案では、事業承継相談の掘り起こしや診断などの予算が増額となっており、県も対応していきたい」と答えました。私は、「県内には後継者がいないため廃業に至る事業者が多く存在する。事業引き継ぎの整備を含めた相談支援は重要と考える。県としても長期的な観点を持って支援を強化してほしい」と発言しました。

2月3日の子ども支援対策特別委員会では、保育士確保に関

## ゆり子の 視点

### 見えない孤立

先月、自殺対策や依存症対策の調査で県の精神保健福祉センターに行きつて聞き取りを行いました。えにくいという話が世代間対立を招くその時、高齢者の出て、三世同居率では？みんな考え自殺に関して、一人全国トップクラスのたり話あつたりする暮らしの高齢者には山形県の課題でもあ課題ではないでしょうか？



して処遇の現状と格差、国の動向などについて質しました。須藤勇司子育て支援課長は「保育士の処遇は山形県は月額20万円、東京都が28万円台で、約8万円の差がある。」「新年度政府予算案では、保育士について月額6000円程度(2%)の処遇改善に加えて一部キャリアアップによる月額4万円の処遇改善なども示されている」と答えました。私は、「県内の保育士さんたちからは働き続けられる処遇を求める声が大きいです。また、『東京都が新年度思い切った独自予算計上』の報道が流れ、関係する西谷氏(中央)



「集い」に参加する渡辺ゆり子県議  
日本共産党県委員会、村山地区委員会、後援会の主催で2017年「新春のつどい」が開催されました。「集い」には、紙智子参議院議員、ふなやま由美衆院東北比例候補、仙台市議石川涉衆院山形一区候補も参加しました。



山形平和集会是、11団体の実行委員会の主催による集会で45回目の開催。

## 2.11 憲法改悪反対 山形平和集会に参加

今年は「世界の今と日本のこれから」と題した西谷修氏(立教大学大学院特任教授)による記念講演がおこなわれました。アメリカのトランプ政権成立の背景、そして日本の安倍政権の本質から日本国憲法を考える内容で、改めて憲法改悪を許してはならないの思いを強くしました。



「つどい」に参加したふなやま比例候補と紙参院議員